

## 進捗状況の概要

平成 27 年度に COC+事業の採択を受け、初年度はまず組織体制づくりを中心に以下のような取組を行った。

### (1) 事業実施体制の基盤整備

弘前大学長を機構長とする青森 COC+推進機構を設置し、オール青森の体制で事業協働地域である青森県内を活性化する体制を構築した。平成 27 年 11 月に開催した第 1 回青森 COC+推進機構総会では、9 大学の学長と 1 高等専門学校の校長及び、青森県知事、青森市・八戸市・弘前市・むつ市の 4 市長が一堂に会し、事業協働機関が連携体制をつくり、円滑かつ効果的に事業を進めていくことを確認した。

事業の実施にあたり、県内に青森・弘前・八戸・むつの 4 つの地域ブロックを設定し、各ブロックにブロックコーディネーターを置いて学生の県内就職や起業を支援する体制を構築した。また、青森県が産業化に力を入れる食（アグリ）・自然エネルギー（グリーン）・医療（ライフ）・観光（ツーリズム）の 4 分野において大学のシーズを活かした雇用創出を進めるため、各分野にプロジェクトマネージャーを置いて、同じ分野に強みを持つ機関が県内横断的に連携してプロジェクトを実施する体制を構築した。これらブロック事業や雇用創出連携プロジェクトの進捗管理と事業協働機関相互の連絡調整を行うため、県内全体を管理する COC+推進コーディネーターを配置した。

### (2) 学生の県内就職・起業支援の取組

学生の地元就職・起業を支援する取組として、これから就職活動をする学生の県内企業に対する認知度を上げるために、各ブロックにおいて企業説明会等を開催した。また、起業支援コンサルタントを招いたシンポジウムを実施するなど、学生の地元就職の意識を高める取組を行った。

実施にあたっては、ブロックリーダー校とブロックコーディネーターが中心となり、ブロック会議を開催して事業の検討・企画を行った。

### (3) 雇用創出を進めるための取組

雇用創出については、各プロジェクトマネージャーが中心となり、大学発新産業の創出を目指して各大学が有する強みを精査するなど、今後のプロジェクトの方向性について検討を行った。これに加え、いくつかの先行する分野では、世界自然遺産白神山地から採取・分離に成功した酵母（白神酵母）を利用した清酒の試作（アグリ分野）や、市民と協働した観光コンテンツの作成（ツーリズム分野）など、今後の発展につながり得る取組もみられた。

### (4) 教育プログラムの検討・策定

教育プログラムの構築にあたっては、教育プログラム開発委員会を設置するとともに、受入企業側と学生が共に成長する「共育型インターンシッププログラム」、女子学生の県外流出に歯止めをかける「女子学生のキャリア支援プログラム」、学生のベンチャーやスモールビジネスを支援する「起業実行プログラム」の 3 つのテーマでワーキンググループを設置し、各主査校を中心に、今後の具体的な活動に向けての基本的な方向性等を検討した。平成 28 年 2 月には教育プログラム開発委員会を開催し、各ワーキンググループの進捗状況を確認した。